

FUJITSU Component SERVIS KVM solution

KVMスイッチ(4ポート) [FS-1104AU] / [FS-1104MU] KVMスイッチ(8ポート) [FS-1108AU] / [FS-1108MU] KVMスイッチ(16ポート) [FS-1116AU] / [FS-1116MU] オペレーティングマニュアル兼保証書 この装置は、クラスA情報技術装置です。 この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。 この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI-A

ハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造され ているものであり、(1)原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送シ ステムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御などの、 極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険 性を伴う用途ならびに(2)海底中継器、宇宙衛星など、極めて高度な信頼性が要求される用途(以下「ハイセ イフティ用途」という)に使用されるよう設計・製造されたものではございません。お客様は、当該ハイセイ フティ用途に要する安全性ならびに信頼性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでくださ い。また、お客様がハイセイフティ用と本製品を使用したことにより発生する、お客様または第三者からの 如何なる請求または損害賠償に対しても、富士通コンポーネント株式会社およびその関連会社は一切責任を 負いかねます。

> その他の製品名等の固有名詞は、各社の登録商標または商標です。 Copyright 2015 FUJITSU COMPONENT LIMITED

目

次

1. はじめに	1
2. 表記規則	1
3. 梱包品の確認	2
4. 重要なお知らせ	2
5. 安全性	3
6. カスケード接続時の注意事項	
7. 特長	11
8. 各部の名称と働き	
9. 設置	
10. ケーブルの接続と取り外し	
10-1. ケーブルの接続	
10-2. AC ケーブル抜け防止について	25
10-3. ケーブルの取り外し	27
11.操作方法	28
11-1. カスタマーモード設定	
11-2. サーバの選択	
11-3. サーバ名の常時 OSD 表示	
11-4. 画面左上の小窓 OSD 表示について	
11-5. KVM スイッチ本体の電源供給方法	
11-6. ポート1固定モードの設定	45
12. 仕様	46
13. トラブルシューティング	49
付録. サーバ名称記録シート	51

1. はじめに

このたびは、KVM スイッチ(4 ポート)または KVM スイッチ(8 ポート)または KVM スイッチ(16 ポート) [以降、KVM スイッチまたは本装置と呼びます]をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。 本装置をお使いになると、1 組のモニタ、キーボード、マウスで複数台のサーバを操作できるため、大幅な省 スペース化が実現できます。また、本装置をカスケード接続することにより、KVM スイッチ(16 ポート)17 台で最大 256 台のサーバを操作できます。

本書は、本装置の基本的なことがらについて説明しています。ご使用になる前に、本書をよくお読みになり、 正しい取り扱いをされますようお願いいたします。

また、本書は本装置の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

2. 表記規則

このオペレーティングマニュアルで使用している記号と文字の意味は次のとおりです。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性があること、 および物的損害(本装置またはサーバの損害など)が発生する可能性があることを 示しています。

Point この記号のあとの文書は補足説明、注釈、ヒントです。

カギ括弧(「」)	参照する章のタイトルや用語の強調をしています
KVM スイッチ	4 ポート/8 ポート/16 ポート共通の記述の説明時に使用しています
または本装置	
<>	キーボード上のキーをしめします
	例: <esc>は ESC キーを<enter>は ENTER キーを示します</enter></esc>
()で囲まれた数字	順序に従って行う必要がある操作を示します

Т

3. 梱包品の確認

梱包物が揃っていることを確認し、(√点)を付けてください。

4 ポート (FS-1104AU / FS-1104MU)	
KVM スイッチ 4 ポート	×1
🗌 オペレーティングマニュアル (本書)	×1
□ AC アダプタ	×1
□ AC ⊐ード [1m]	×1
□ 抜け防止バンド	×1
8ポート (FS-1108AU / FS-1108MU)	
□ KVM スイッチ 8 ポート	×1

	\sim 1
🗌 オペレーティングマニュアル(本書)	$\times 1$
□ AC ケーブル [2m]	$\times 1$
□ 抜け防止バンド	$\times 1$
□ ワイヤーフクサー	×1
□ ラック取付金具(大)	×2
□ ラック取付金具(小)	×2
□ ラック取付金具取付ネジ	×10

16 ポート (FS-1116AU / FS-1116MU)

🗆 KVM スイッチ 16 ポート	×1
🗌 オペレーティングマニュアル (本書)	×1
□ AC ケーブル [2m]	×1
□ 抜け防止バンド	×1
□ ワイヤーフクサー	×1
□ ラック取付金具(大)	×2
□ ラック取付金具(小)	×2
□ ラック取付金具取付ネジ	×10

万一、不備な点がございましたら、おそれいりますが、担当営業員までお申し付けください。

4. 重要なお知らせ

5章、6章には、KVM スイッチで作業する際に注意しなければならない、安全性に関する情報を記載しています。よくお読みのうえ、正しくご使用ください。

5. 安全性



本装置は、事務オフィス環境で使用する電子事務用機器などの情報処理装置に関する安全規格に準拠しています。ご不明な点があれば、担当営業員に連絡してください。

- 本装置を運搬する際は、衝撃や振動を避けるため、購入時の箱か同等の箱を使用してください。
- ●本装置の取り付け中と使用前に、「12.仕様」の環境条件についての記事と「9.設置」の記事をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- 電源はスイッチ等で切断しない常時通電している電源コンセントから取ってください。
- 本装置を寒冷な環境から設置場所に移動すると、結露を生じることがあります。
 装置が完全に乾燥し、設置場所とほぼ同じ温度になってから使用してください。
- 損傷しないようにすべてのケーブルを配置してください。ケーブルを接続または取り外すときは、
 「10.ケーブルの接続と取り外し」の該当部分を参照してください。
- 雷雨のときは、ケーブルを接続したり取り外したりしないでください。
- 本装置の内部に異物(ネックレスやクリップなど)や液体が入らないようにしてください。
- 緊急の場合(筐体、部品、またはケーブルの損傷、液体や異物の侵入など)は、 ただちに装置からすべてのケーブルを外して、担当営業員に連絡してください。
- ●本装置を修理できるのは資格のある技術者だけです。資格のないユーザが本装置を開き、誤った修理や改造 をおこなうと、感電や火災の原因になることがあります。
- ケーブルは強く引っ張らず、必ずコネクタ部を持って抜いてください。
- 濡れた手での使用またはコネクタの抜き差しはしないでください。
- 本装置の上には、コップなど不要な物をおかないでください。
- 警告マーク(稲妻マークなど)が付いている部品(電源装置など)の分解、取り外し、交換は、資格のある 人以外はできません。
- 周辺機器用のケーブルは、干渉を防ぐために適切な絶縁処理が必要となりますので、専用のケーブルをご使用ください。
- ●本書は本装置とともに大切に保管してください。本装置を第三者に譲渡する場合は、本書も譲渡してください。

安全に関するご注意

本書では、使用者および周囲の方の身体や財産に損害を与えないための警告表示をしています。警告表示は、警告レベルの記号と警告文から構成しています。

以下に、警告レベルの記号を示し、その意味を説明します。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

⚠警告	この表示は正しく使用しない場合、人が死亡する、または重症を負う 恐れがあることを示しています。
⚠注意	この表示は、正しく使用しない場合、軽傷、または中程度の傷害を負うことがあり得ることと、本装置自身またはその他の使用者などの財 産に損害が生じる危険性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

\triangle	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるもので す。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
\oslash	◎で示した記号は、してはいけない行為(禁止行為)であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
0	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。

使用中の取り扱いについて

	⚠警告
感電、火災	開口部から本装置内部に金属類を差し込んだり、落とし込んだりしないでくだ さい。火災・感電・故障の原因となります。
水ぬれ ()))	本装置に水をかけたり、濡らしたりしないでください。感電・火災の原因となります。
水場での使用	風呂場、シャワー室などの水場で使用しないでください。感電・火災の原因と なります。
悪環境での使用	本装置の上や近くに、花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入っ た容器または、小さな金属物を置かないでください。装置内に入った場合、火 災・感電・故障の原因となります。
電源プラグ抜去	万一、本装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、 ただちに本装置の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントか ら抜いてください。感電・火災の原因となります。
電源プラグ抜去	万一、装置内部に水などの異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチ を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売窓口までご連絡ください。そ のまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
電源プラグ抜去	万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電 源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売窓口までご連絡く ださい。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
電源プラグ抜去	近くで雷が発生した時は、電源プラグをコンセントから抜いてください。その まま使用すると、落雷等による直接・間接的な影響により装置が破壊され、感 電・火災の原因となることがあります。
ימדו	液晶モニタが破損し、液状の内容物が流出して皮膚に付着した場合は、流水で 15分以上洗浄してください。また、目に入った場合は、流水で15分以上洗浄 したあと、医師に相談してください。液晶モニタの内部には、刺激性物質が含 まれています。

使用中の取り扱いについて

⚠警告



席 航空機内では本装置を使用しないでください。航空機の計器誤動作の原
 因となります。

使用中の取り扱いについて

⚠注意



設置・据付について

⚠警告

感電	アクセサリの取り付けおよび取り外しを行う場合は、必ず装置本体の電
<u>/</u> 4\	感電の原因となります。
感電、火災	本装置を移動させる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、外部の
	接続線をはずしたことを確認の上、行ってください。コードが傷つき、 火災・感電の原因となることがあります。
	接続線をはずしたことを確認の上、行ってください。コードが傷つき、 火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

	本装置を動かす場合は、必ず 2 人以上で行ってください。腰や手を傷め る原因となります。
悪環境への設置	水、湿気、湯気、ほこり、油煙等の多い場所(調理台や加湿器のそばな ど)に設置しないでください。感電・火災・故障などの原因になること があります。
不安定な場所	ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
振動、衝撃	振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、 けがの原因となることがあります。
専用箱での運搬	本装置を運搬する際は、衝撃や振動を避けるため、購入時の箱か同等の 箱を使用してください。ただし、変形及び破損等がある箱は、使用しな いでください。本装置が故障する原因となることがあります。
結露	本装置を寒冷な環境から設置場所に移動すると、結露を生じることがあ ります。装置が完全に乾燥し、設置場所とほぼ同じ温度になってから使 用してください。すぐに使用すると、本装置が故障する原因となること があります。

<u>AC アダプタ・電源・電源コードについて</u>

	⚠警告
øn ≢	濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
XXX	電源プラグとコンセントの接続部には、ホコリやゴミをためないでください。 その状態で長い間使用して湿気をおびると、接続部が熱をもって発火にいたる 「トラッキング」をおこし、火災の原因となります。
XXX	電源コードを巻いたり、束ねたりしないでください。その状態で使用すると電源コードが熱をもって発火し、火災の原因となります。
感電・火災	電源コードを傷つけたり、加工したりしなしないでください。また、重いもの を載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりして、 電源コードを傷めないでください。感電・火災の原因となります。
感電・火災	電源コードのコードやプラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるい状 態では使用しないでください。そのまま使用すると、感電・火災の原因となり ます。
アース接続 していた。 でのように、 でのよう、 でのように、 でのように、 でのように、 でのように、 でのように、 でのように、 でのように、 でのように、 でのように、 でのように、 でのように、 でのようでのよう でのよう、 でのよう でのよう、 でのよう、 でのよう でのよ でのよ でのよ でのよ でのよ でのよ でのよ でのよ	電源を接続する前に必ずアース接続をしてください。アース接続しないで使用 すると、万一漏電した場合に、感電・火災の原因となります。
アース接続 日日 日日 日日 日日 日日 日日 日日 日日 日日 日	湿気の多い場所で使用する場合はアース接続をしてください。 アース接続しないで使用すると、万一漏電した場合に、感電・火災の原因とな ります。
感電・火災	指定された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線を しないでください。感電・火災の原因となります。

8

AC アダプタ・電源・電源コードについて



	電源プラグを電流容量 15A 以上の専用コンセントに直接接続してくだ さい。延長コードは過熱・発火の危険があるので使わないで下さい。
JUSSE	指定の電源電圧以外では、絶対に使用しないでください。火災や故障の 原因となります。

	⚠注意
感電・火災	電源コードのプラグをコンセントから抜くときは、電源コードを引っ張 らずに、必ず電源コードのプラグを持って抜いてください。電源コード を引っ張ると、コードの芯線が露出したり断線したりして、感電・火災 の原因となることがあります。
	長時間装置を使用しないときには、安全のため必ず電源コードをコンセントから抜いてください。火災・故障の原因となることがあります。
XSE	電源コードのコンセント差し込みプラグは、コンセントの奥まで確実に 差し込んでください。プラグとコンセントの接触不良により、火災・故 障の原因となることがあります。
感電・火災	電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、 火災・感電の原因となることがあります。

保守について

、警告

お客様自身の修理 本装置の修理はお客者自身で行わないでください。火災・感電の原因と なります。弊社にご連絡の上、弊社の担当保守員によるメンテナンスを 受けてください。

分解・改造 オ し る

本装置を分解・改造しないでください。火災・感電の原因となります。 また、本製品の中古品をオーバーホールなどによって再生して使用しな いでください。使用者や周囲の方の身体や財産に予期しない損害が生じ るおそれがあります。

、注意

装置内の取り扱い 静電気に対し誤動作や故障を起こす場合があります。保守担当者以外は

内部に触れないで下さい。



本製品は金属、プラスチック部品を使用しています。廃棄するときは、 各自治体の指示に従ってください。

6. カスケード接続時の注意事項

● 従来機種とのカスケード接続
 従来機種とのカスケード接続はどちらをマスター側、スレーブ側にしてもカスケード接続できますが、
 機種により機能の制約事項があります。

● DVI-KVM とのカスケード接続

シングルユーザーKVM スイッチ DVI モデル(FS-V1004MU, V1008MU)とのカスケード接続ができます。 その際には、本装置をスレーブ側にしてください。マスターとしての使用はできません。 (詳しくは FS-V1004MU, V1008MU のオペレーティングマニュアルをご覧ください。)

7. 特長

- 複数台の PC サーバを接続することで、今まで各サーバに接続していた複数台のコンソール(モニタ、 キーボード、マウス)を1組のコンソールで共有することができ、大幅な省スペースが実現できます。
- KVM スイッチ(4ポート)1台で最大4台、KVM スイッチ(8ポート)1台で最大8台、KVM スイッチ(16 ポート)1台で最大16台のサーバが選択できます。
- 本装置をカスケード接続する事で、接続できるサーバ数を拡張できます。
 例: KVM スイッチ(16 ポート) 17 台で、256 台のサーバが接続可能です。
- モニタの解像度は WUXGA(1920×1200)、リフレッシュレート 60Hz までサポートします。
- サーバの選択は、キーボード/マウス(ホットキーモード)で 簡単にできます。
- ホットキーモードでは On Screen Display(以下 OSD)表示により、画面を見ながら切り替えができます。
- OSD表示はキーボード/マウスによるホットキー入力で行えます。ホットキーは3種類のキー入力 (<Ctrl>+<Alt>+<Shift>、<Ctrl> x2、<Scroll Lock> x2)もしくはホイールボタン付きマウスの センターボタンクリックから選択して設定できます。
- オートスキャンは、フロントのスイッチ又はキーボードで行えます。
- オートスキャンでは起動しているサーバを自動的に切り替えますので、各サーバの状態が一定周期で監視 できます。また切り替え周期は6段階に設定できます。
- サーバ/PC 接続専用ケーブル(「12.仕様」のオプション品の項目を参照)により、キーボード、マウスの インターフェースが PS/2 または USB の PC、サーバに接続できます。
- FS-11XXMU は、ORACLE(SUN)サーバ対応品です。
- シングルユーザーкvm スイッチ DVI モデル(FS-V1004MU, V1008MU)とのカスケード接続ができます。

8. 各部の名称と働き

フロントパネル面











8 ポートリア面



16 ポートリア面

① LED

サーバ電源、選択状態などを表示します。

カスケード接続無しの場合

サーバ電源	ポート選択状態	LED 表示
ON	選択中	青色点灯
ON	選択していない	緑色 点灯
OFF	選択中	青色点灯
OFF	選択していない	消灯

カスケード接続有りの場合

1) マスター側

KVM スイッチ	マスター側	LED 表示
スレーブ接続	ポート選択状態	
有	選択中	橙色 点灯
有/無	選択していない	緑色 点灯
無	選択中	青色点灯
(サーバ接続も無)		
無	選択していない	消灯
(サーバ接続も無)		

2) スレーブ側

サーバ電源	マスター側	スレーブ側	LED 表示
	ポート選択状態	ポート選択状態	
ON	スレーブ側を選択中	選択中	青色点灯
ON		選択していない	緑色 点灯
OFF		選択中	青色 点灯
OFF		選択していない	消灯
ON	スレーブ側を選択して	-	緑色 点灯
OFF	いない、又は他のスレ	-	消灯
	ーブを選択中		

3) その他

	状態	LED 表示				
KVM スイッチ本体の A	C電源供給無し	緑色 全ポート点滅(40ms 間隔)				
(コンセントが抜けたな	(ど)					
HOTKEY モード時	カスケード接続がないポート	青色 点滅				
	を選択している場合	(400ms 間隔)				
	カスケード接続があるポート	橙色点滅				
	を選択している場合	(400ms 間隔)				
[RESET]スイッチ	カスケード接続がないポート	青色 点滅				
押下時	を選択している場合	(約1回)				
	カスケード接続があるポート	橙色点滅				
	を選択している場合	(約1回)				
[RESET]スイッチ長押し	,(5 秒以上)	AU:緑色イルミネーション点滅				
		MU:青色イルミネーション点滅				
AutoScan 時	カスケード接続がないポート	青色 点滅				
	を選択している場合	(タイミング 1)				
	カスケード接続があるポート	橙色 点滅				
	を選択している場合	(タイミング 1)				
キーボードタイプの簡繁	易設定時の対応言語	青色 点滅				
(ポート 1~4 のいずれ;	か)	(400ms 間隔)				

タイミング1

点灯	消灯	点灯	消灯
40ms	40ms	40ms	680ms

② [ServerSelection]スイッチ

サーバを選択する時に押します。サーバの電源が OFF の状態のポートも選択できます。

③ [AutoScan]スイッチ

[AutoScan]スイッチを押下するとオートスキャンモードに入りサーバの電源が ON になっている ポートの画面を順次自動的に切り替えることができます。

オートスキャンモードの詳細については、"11-2-5.オートスキャンモード"を参照下さい。

④ [RESET] スイッチ

通常は使用しません。万が一、サーバの選択ができない場合やキーボード、マウスの入力異常が発生した場合にボールペンの先などで軽く押してください。

[RESET] スイッチを押下すると KVM スイッチ内部のマイコンにリセットを行います。

リセット解除後は、PS/2 キーボード、PS/2 マウスのモードを保持して再起動しますので、サーバの動作に支障をきたすことなく動作復旧します。

USB キーボード、USB マウスは 1 秒間のディスコネクト動作を行います。

ディスコネクト動作により USB 動作を復旧させます。

	[RESET]スイッチ短押し	[RESET]スイッチ長押し
	(5 秒未満)	(5 秒以上)
一段接続	選択ポート及びコンソールの	全ポート及びコンソールの
の場合	USB ディスコネクト処理を行う。	USB ディスコネクト処理を行う。
		電源常時 ON モードとなる。
カスケード	マスター側の[RESET]スイッチ操作に	マスター側の[RESET]スイッチ操作
接続の場合	て選択ポート及びコンソールの	にてマスター側、スレーブ側の
	USB ディスコネクト処理を行う。	全ポート及びコンソールの
	又、カスケード再認識処理を行う。	USB ディスコネクト処理を行う。
		又、カスケード再認識処理を行い
	スレーブ側の[RESET]スイッチ操作に	電源常時 ON モードとなる。
	てスレーブ側の選択ポートの	
	USB ディスコネクト処理を行う。	スレーブ側の[RESET]スイッチ操作
		にてスレーブ側の全ポートの
		USB ディスコネクト処理を行う。

又、フロントパネルの左[ServerSelection]スイッチと[AutoScan]スイッチと[RESET] スイッチ を同時押下すると下記のとおり各種設定が初期化されます。

サーバ名	初期化される
AutoScan 周期	初期化される
常時表示状態	初期化される
AutoScan 中の表示有無設定	初期化される(表示有)
HOTKEY 設定	初期化される
カントリーコード設定	設定維持
電源常時 ON	設定維持
EDID	設定維持
SELECT-A/B	設定維持

⑤ サーバ接続用ポート

本装置の各ポートとサーバのキーボード/マウス/モニタコネクタを専用ケーブルで接続します。

⑥ モニタコネクタ

モニタを接続します。

- ⑦ キーボードコネクタPS/2 のキーボードを接続します。
- ③ マウスコネクタ
 PS/2 のマウスを接続します。
- ③ USB キーボード・マウスコネクタ
 USB のキーボード、マウス、ハブを接続します。
 キーボード、マウス、ハブはどちらに接続しても動作します。
 キーボード、マウス、ハブ以外は接続できません。
 接続できるデバイスの最大数は下記のとおりです。
 キーボード・マウス合わせて4台
 ハブ
 1段

但し、無線タイプのデバイスなどに於いて受信器を接続した際に実際にキーボード、 マウスを使用していないにも係わらずキーボード、マウスが接続されている信号を 出力する場合があります。

この場合は、使用していないデバイスも接続できるデバイス数にカウントされます。

PS/2 コンソールと USB コンソールの両方にキーボード、マウスを接続すると、USB 側が 優先され、PS/2 側は動作しません。

ORACLE(SUN)サーバへの対応

・FS-1104AU/FS-1108AU/FS-1116AU の場合

	Windows サーバ	ORACLE(SUN)サーバ
標準キーボード(USB)	0	-
ORACLE(SUN)用キーボード(USB)	\bigcirc	0

・FS-1104MU/FS-1108MU/FS-1116MU の場合

	Windows サーバ	ORACLE(SUN)サーバ						
標準キーボード(USB)	\bigcirc	〇注						
ORACLE(SUN)用キーボード(USB)	\bigcirc	0						
注:Application キーと他のキーを併押下することで SUN 専用キーコードが出力されます。								

※ (Fn) +にて	Help Esc	F	1	F2	F3	F4	F	5 F	6 F	7	F8		F9	F1	D F1	11	F12	Print Screen SysRq	Scroll Lock	Pause Break				
※ (Fn)	+にて Sto	p Pr	ops	Front	Open	Find	Again	Undo	Сору	Past	e Cu	t									Mute	Vo I -	Vo +	Power
		ж 2	ŝ	# あ 3 あ	\$う 4う	% え 5 え	& お 6 お	1 や 7 や	(ゆ 81夕	9 9)	Ĩ	をわ	s = इ.	Â	々 へ ¥	-	Back space	Insert	Home	Page Up	Num Lock	/	*	-
	Tab ♣	0 た	W	τ	ι) R	d I	r ۲	~ U	な	12) 6	P	Į į	¢,	[•]	E	nter	Delete	End	Page Down	7 Home	8	9 Pg Up	
	Caps Lock 英数 漢字番号	A 1	5	٤	DL	F	G ŧ	H <	J	К О	Ľ	, †] n	* ケ : け] [•	-				4	5	6	
	িShift		2 0	X	ŧ C.	Z V	υB	= N	74 H	ŧ,	à	〉。 、る	?	d	3	ି Sh	ift		1		1 End	2	3 Pg Dn	Enter
	Ctrl	•	AI	t	確定	Ĵ	_^		変換	E Di	本語 n-Off	かな	ſ	Ĵ	Com- pose	Ct	:rl	-	4	-	0 Ins		Del	Encer
			_								_		~		(Fn)									

10 USB port LED

USB ポートの状態を表示します。

状態	LED 表示
該当 USB ポートは使用可能、又は使用中	緑色 点灯
該当 USB デバイスエラー	消灯
・過電流	
・ USB デバイスサポート外	
・ USB デバイスの接続数が多すぎる	
該当 USB ポートは USB デバイス認識中	禄色 点滅

- インレット [8 ポート/16 ポートのみ]
 AC ケーブル (AC100V) を接続します。
 専用の AC ケーブル以外はご使用にならないで下さい。
- ② AC アダプタ用コネクタ [4 ポートのみ]
 専用の AC アダプタを接続します。専用の AC アダプタ以外はご使用にならないでください。
- ③ ミニ USB コネクタ

このコネクタは通常使用しません。USB ケーブルにてサーバと接続し専用アプリケーションを 使用し KVM スイッチのファームウエアをバージョンアップします。

9. 設置

KVM スイッチは外付装置として設置できるだけでなく、ラックに搭載することができます。 4 ポートは、ラックマウントパネル(FP-P005:別売)をご利用いただくことにより、 ラックに搭載することができます。

ラック搭載(4ポート)

(1) KVM スイッチ、ラックマウントパネルをパネル裏面よりラックマウントパネル
 (FP-P005:別売)に添付の皿ネジ(KVM スイッチ側4本、マスクパネル側2本、計6本)



(2) ラックに取り付けます。



※ラック取付用ネジは添付されていません。

(1) 本体からコンソールパネルを取り外します。



(2) 本体及びコンソールパネルにラック取付金具を取り付けます。



(3) ラックに取り付けます。



※ラック取付用ネジは添付されていません。

必要に応じ製品に添付されているワイヤーフクサーを製品裏面の任意の場所に 貼りつけ、コンソールパネル接続ケーブルがたるまないように固定してください。



10. ケーブルの接続と取り外し

10-1. ケーブルの接続

KVM スイッチ(8 ポート)の例で説明します。KVM スイッチ(4 ポート/16 ポート)も同様の手順で接続します。

10-1-1. カスケード接続しない場合(1段接続)

サーバが最大8台まで接続可能です。

- サーバの AC ケーブルを電源コンセントに接続します。(①を接続)ただし、サーバ電源は OFF のままにしてください。
- (2) 1 台目のサーバのキーボードコネクタ、マウスコネクタ及びモニタコネクタに別手配の 専用ケーブルを接続します。(②を接続)
- (3) 専用ケーブルの反対側のコネクタを本装置のサーバ接続用ポートに接続します。(③を接続)
- (4) 2~8 台目も同じ手順で接続します。[CONSOLE] ポートにキーボード、マウス、
 モニタを接続します。(④を接続) PS/2、USB の両方に接続しても USB 側しか動作しません。
- (5) AC ケーブルを本装置に接続し、電源コンセントに接続します。(⑤を接続)
- (6) モニタの電源をいれ、本装置の[RESET]スイッチを押しモニタの EDID 情報を本装置に 読み込ませます。
- (7) 使用するサーバの電源を入れます。



10-1-2. カスケード接続する場合(2段接続)

本装置をカスケード接続(最大構成:マスター1 台、スレーブ 8 台)することにより、最大 64 台の ホストが接続できます。

従来機種とカスケード接続する際は、本装置、従来機種のどちらをマスター側、スレーブ側にしても動作 します。

- (1)「10-1-1. カスケード接続しない場合(1 段接続)」の(1)~(4)と同様の手順で 2 段目(スレーブ) のサーバ接続用ポートに 1~8 台のサーバを接続します。(①を接続)
- (2) 1 段目(マスター)のサーバ接続用ポートと 2 段目(スレーブ)の [CONSOLE] ポートを 別手配の専用ケーブルで接続します。(②を接続)

*注.マスターとスレーブは、PS/2:1.8mの専用ケーブルで接続する必要があります。

(3) さらにスレーブを増設する場合は、(1)、(2)と同様の手順で接続してください。

*注.3 段接続はできません。

- (4) 同様の手順で1段目(マスター)の残りサーバ接続用ポートにサーバを接続します。(③を接続)
- (5)1段目(マスター)の[CONSOLE] ポートにキーボード、マウス及びモニタを接続します。
 (④を接続)PS/2、USBの両方に接続しても USB 側しか動作しません。スレーブ側の USB ポートにはキーボード、マウスを接続しないで下さい。
- (6) AC ケーブルを本装置に接続し、電源コンセントに接続します。(⑤を接続)先にマスター側の AC ケーブルを電源コンセントに接続して下さい。
- (7) モニタの電源をいれ、マスター側の[RESET]スイッチを押しモニタの EDID 情報を本装置に 読み込ませます。
- (8) 使用するサーバの電源を入れます。



シングルユーザーKVM スイッチ DVI モデル(FS-V1004MU, V1008MU)とカスケード接続する場合は、本 装置をスレーブ側にしてください。マスターとしての使用はできません。 (詳しくは FS-V1004MU, V1008MU のオペレーティングマニュアルをご覧ください。)

10-2. AC ケーブル抜け防止について

10-2-1. 4 ポート KVM スイッチ

(1) 抜け防止バンド取付

添付品の抜け防止バンドを AC アダプタの DC ケーブルに取り付けます。 抜け防止バンドをケーブルにクランプ後、バンドの余長分をカットします。



(2) DC ケーブル接続

下図の通り、DC ケーブルを製品本体に接続し製品本体の丸穴に抜け防止バンドを 差し込みます。



10-2-2. 8 ポート/16 ポート KVM スイッチ

(1) 抜け防止バンド取付
 添付品の抜け防止バンドを AC ケーブルに取り付けます。
 抜け防止バンドをケーブルにクランプ後、バンドの余長分をカットします。



(2) AC ケーブル接続

下図の通り、AC ケーブルを製品本体に接続し製品本体の丸穴に抜け防止バンドを 差し込みます。



10-3. ケーブルの取り外し

影響を受ける装置すべての電源プラグを電源コンセントから抜いた後で、各ケーブルを 取り外してください。



11. 操作方法

Point 最初に EDID の設定

本装置に初めてモニタを接続した時は、プラグアンドプレイデータ(EDID データ)を設定する必要があり ます。EDID データ設定後、サーバを再起動することで接続されたモニタに適した環境で使用すること ができます。また、設定した EDID データはすべてのポートでエミュレーションされるため、選択して いないポートのサーバを起動した場合にも接続されたモニタに適した環境で使用できます。 EDID の設定については、「11-1-4. プラグアンドプレイデータ(EDID データ)の設定」をご参照 ください。

11-1. カスタマーモード設定

11-1-1. ホットキーモードの設定

ホットキーモードには下記 2 つのモードがあります。OFF にすることもできます。 MODE-1:"SERVER SELECTION"画面、又は"CUSTOMER MODE"画面の表示 MODE-2:"サーバ名"の表示

下表の操作にて OSD 画面が表示されホットキーモードに移行します。

操作	ホットキーモードデフォルト値
① <ctrl>+<alt>+<shift>同時押下</shift></alt></ctrl>	MODE-1
② <ctrl>連続2回押下</ctrl>	MODE-2
③ <scrolllock>連続2回押下</scrolllock>	MODE-1
④マウスセンターボタン押下	OFF

ホットキーモード1に入った後、<N>を押下すること、もしくは右ボタン押下によって カスタマーモードに入ります。変更したいモード(MODE-1、MODE-2、OFF)にカーソルを合わせ <Enter>を押下し矢印キー<↑>、<↓>を使用してモードを選択してください。 <Enter>を押下することで確定します。

又、マウス操作でも選択することができます。

- *注.モードは自由に設定することができ、全て"MODE-1"に設定することはできますが、①~③の 設定を全て"MODE-2"に設定することはできません。又、全て"OFF"に設定することもでき ません。
- *注.OSD 画面を表示させるには接続されているサーバの内、少なくとも1台のサーバからのビデオ信 号入力が必要です。省電力モードなどの設定によりサーバからのビデオ信号が入力されない場合 はホットキーモード1又はホットキーモード2に入ることによって省電力モードのサーバを 自動復帰します。

- *注.センターボタン付きマウス、ホールボタン付きマウスを使用する場合は、センターボタンに ホットキーを割り当てることができます。OSD 画面(カスタマーモード)にて"MOUSE CENTER BUTTON"を"MODE-1"もしくは"MODE-2"に設定するとセンターボタンを押下した際に ホットキーモードに移行します。
- *注.上表で<Ctrl>+<Alt>+<Shift>同時押下、マウスセンターボタン押下を OFF とした場合でも、 ホットキーモードに入った後では OSD から抜ける操作として使用できます。
- *注.ホットキーモード中にサーバの電源が全てシャットダウンした場合は、ホットキーモードを 自動的に終了します。又、サーバの電源が全てシャットダウンしている場合は、 ホットキーモードに移行できません。

11-1-2. キーボードの言語設定

ホットキーモード1に入った後、<N>を押下すること、もしくは右クリックによってカスタマーモー ドに入ります。KEYBOARD TYPE にカーソルを合わせ、<Enter>を押下すると KEYBOARD の設定言語 を変更することができます。矢印キー<↑>、<↓>を使用して言語を選択してください。 <Enter>を押下することで決定します。

JAPANESE→ENGLISH US→ENGLISH UK→GERMAN→FRENCH→SPANISH→SWEDISH→PORTUGUESE→ CHINESE TAIPEI→KOREAN→ITALIAN→UNIX→NORWEGIAN→BELGIAN→DANISH→JAPANESE

UNIX OS をご使用の場合は言語設定が自動的に反映されます。 Windows OS をご使用の場合、本設定は無効です。

11-1-3. キーボードタイプの簡易設定機能

ホットキーモードに入らず、KVM スイッチに電源のみ供給し簡易的にキーボードタイプを設定することができます。

KVMスイッチのフロントパネルの操作によりキーボードタイプの簡易設定を行います。

設定できる言語は、JIS/US/UK/KORの4つのみです。

右[ServerSelection]スイッチ、[AutoScan]スイッチ、[Reset]スイッチの同時押下にて設定モードに 入ります。

[ServerSelection]スイッチの操作により言語を選択します。

LED表示にて現在、選択されている言語が示されます。対応は下表のとおり。

LED表示	ポート1点滅	ポート2点滅	ポート3点滅	ポート4点滅
言語	JIS	US	UK	KOR

[AutoScan]スイッチにより言語を決定し設定モードから抜けます。

*注. EDID データを設定するためにはモニタの電源が ON となっていることが必要です。

- (1) ホットキーモード1に入ります。
- (2) <N>を押下し、もしくは右ボタン押下によってカスタマーモードに入ります。
- (3) カーソルを MONITOR TYPE の右の DEFAULT MONITOR(初期状態)またはモニタ型名に合わせ
 <ENTER>を押下すると SCANNING と表示され、 [CONSOLE] ポートに接続されたモニタから
 EDID データを読み取り本装置に設定されます。
 - *注. EDID データが正しく設定された場合はモニタ名又は"PNP MONITOR"を表示します。 モニタがプラグアンドプレイモニタでない場合、モニタの電源が OFF の場合、及びモニタが 正しく接続されていない場合は、モニタから EDID データを読み取ることができず、 DEFAULT MONITOR(15インチモニタ,解像度:1024x768)として本装置に設定されます。
- (4) <P>を押下、もしくは左ボタン押下によってサーバ選択画面に戻ります。(<P>を押下せず、 <ESC>を押下する、もしくは右ボタン押下によってホットキーモードを終了し、通常画面に戻る ことができます。)
- (5) <ESC>を押下しホットキーモードを終了し、通常画面に戻ります。
 - *注.モニタを接続した状態(電源は ON)で、[RESET]スイッチを押すことによっても EDID データを設定することができます。
- (6) サーバを再起動しサーバに EDID データを読み込みます。



本装置は、コンポジットシンク信号に非対応です。そのためにコンポジット対応している モニタの EDID をサーバに通知した場合、サーバがコンポジットシンク信号を出力する 場合があります。

サーバのコンポジットシンク信号出力を防ぐ為に、「11-1-4. プラグアンドプレイデータ(EDID データ) の設定」を行うと自動で EDID データを変換しコンポジット信号を非対応にします。

下記の操作により EDID データを変換しないこともできます。

- (1) ホットキーモード1に入ります。
- (2) <N>を押下し、もしくは右ボタン押下によってカスタマーモードに入ります。
- (3) カーソルを DEFAULT MONITOR(初期状態)に合わせ<SHIFT>+<ENTER>又は<SHIFT>+ マウス中ボタンを押下すると SCANNING と表示され、 [CONSOLE] ポートに接続された モニタから EDID データを読み取り本装置に設定されます。
- (4) <P>を押下、もしくは左ボタン押下によってサーバ選択画面に戻ります。(<P>を押下せず、 <ESC>を押下する、もしくは右ボタン押下によってホットキーモードを終了し、通常画面に 戻ることができます。)
- (5) <ESC>を押下しホットキーモードを終了し、通常画面に戻ります。

EDID 変換は下表のとおりです。

Address	Byte	Description	内容	Value
08h	2	ID Manufacture	FJC	00011001b
09h		Name		01000011b
0Ah	2	ID Product Code	6000	70h
				17h
10h	1	Week & Year of	Model Year	FFh
11h	1	Manufacture or	2011nen	15h
		Model Year	2011-1990=21	
14h	1	Video Input	Composite Sync Signal on	Bit7 が"0"の場合、
		Definition	Horizontal is not supported	bit"0","1","2"
			Composite Sync Signal on	を"0"にする。
			Green Video is not	Bit7が"1"の場合は変
			supported	更しない
7fh	1	Checksum	The 1-byte sum of all	Checksum
			128byte in this EDID block	
			shall equal zero	

Point ホットキーモードにおけるレジューム機能

マウスの左右移動データ(レジュームコード)を全ポートに送信しサーバをスリープ状態から復帰させます。 本機能によりサーバが通常状態/サスペンド状態に係らず OSD 表示が可能になりポート選択ができます。 レジュームコードは下記において送信されます。

- ・ホットキーモード移行時又は、オートスキャン実行時にレジュームコードを全ポートに送信します。
- ・ホットキーモード又はオートスキャンモード中に全てのポートの Sync 信号が無くなった場合に キーボード、マウスの操作でレジュームコードを出力します。
- ・全てのポート Sync 信号が無くなった場合に"ServerSelection"スイッチの操作でレジュームコード を送信します。
- カスケード接続においても全てのポートにマウスデータを送信します。

11-2. サーバの選択

11-2-1. フロントパネル操作でのサーバ切替機能

Point フロントパネル操作でのサーバの切替方式は2種類あり任意に設定できます。

フロントパネルでのサーバ切替機能は下記の2つの方式があります。 OSD 上でのカスタマーモード設定にて切替方式を変更できます)

- ① 全サーバスキャン方式 (デフォルト)・・・・SELECT-A
- ② UP/DOWN 切替方式 ······SELECT-B



i カスケード接続が無い場合

[ServerSelection]スイッチの押下にてサーバを選択します。 この時、電源が投入されていないサーバも選択可能です。

下図に於いて M1 を選択している場合、[ServerSelection]スイッチ(右)押下にて M2 を 選択します。

又、M1 を選択している場合、[ServerSelection]スイッチ(左)押下にて M8 を選択します。 [ServerSelection]スイッチを押下すると最初はモニタにサーバの画像は表示されず(黒色画面)、 画面の左上に"SELECTION"と表示され、その下にサーバ名が表示されます。 約3秒後に画面が表示されます。(使用するモニタにより表示時間は異なります)

[ServerSelection]スイッチの長押しにてキータイパーし、サーバクイック選択動作に入ります。

キータイパーは押下している長さにより変動します。(500ms⇒150ms)

サーバクイック選択時には、モニタにサーバの画像は表示されず(黒色画面)、

画面の左上に"SELECTION"と表示され、その下にサーバ名が表示されます。

キーを離すと OSD にて表示されたサーバが選択され、数秒後に画像がモニタに表示されます。





ii カスケード接続が有る場合

[ServerSelection]スイッチの押下にてサーバを選択します。 この時、電源が投入されていないサーバも選択可能です。

下図に於いて M1 を選択している場合、[ServerSelection]スイッチ(右)押下にて S1 を 選択します。

又、M1を選択している場合、[ServerSelection]スイッチ(左)押下にて M8を選択します。

[ServerSelection]スイッチの長押しにてキータイパーし、サーバクイック選択動作に入ります。 サーバクイック選択動作時は、[ServerSelection]スイッチ(右)長押しの場合は M8 で、 マスター8 ポート目にカスケード接続している場合は、マスター8 ポート-スレーブ側の 一番数字が大きいポートで、選択動作が停止します。

[ServerSelection]スイッチ(左)長押しの場合は M1 で、マスター1 ポート目にカスケード接続 している場合は、マスター1 ポート-スレーブ 1 ポートで、選択動作が停止します。

又、カスケード側の[ServerSelection]スイッチの操作にてカスケード側のみのサーバ選択が可能です。



11-2-3. UP/DOWN 切替方式によるサーバ切替 (SELECT-B)

i カスケード接続が無い場合

[ServerSelection]スイッチの押下にてサーバを選択します。 この時、電源が投入されていないサーバも選択可能です。

下図に於いて M1 を選択している場合、[ServerSelection]スイッチ(右)押下にて M2 を選択します。

又、M1を選択している場合、[ServerSelection]スイッチ(左)押下にて M8を選択します。

[ServerSelection]スイッチの長押しでのキータイパー(サーバクイック選択動作)には 対応していません。



ii カスケード接続がある場合

[ServerSelection]スイッチの押下にてサーバを選択します。 この時、電源が投入されていないサーバも選択可能です。

下図に於いて M1 を選択している場合、[ServerSelection]スイッチ(右)押下にて S1 から S8 の前回選択されたサーバを選択します。(初期は S1) 又、M1 を選択している場合、[ServerSelection]スイッチ(左)押下にて M8 を選択します。

[ServerSelection]スイッチの長押しでのキータイパー(サーバクイック選択動作)には 対応していません。

マスターのフロントパネル操作に於いて、カスケード接続があるポート選択時に[ServerSelection] スイッチの左右を同時に押下すると、選択は接続されたカスケード先に移行し、その後の [ServerSelection]スイッチの操作によりカスケード先のサーバが選択されます。 もう一度[ServerSelection]スイッチの左右を同時に押下すると選択はマスターに移行します。

又、カスケード側の[ServerSelection]スイッチの操作にてカスケード側のみのサーバ選択が可能です。



各サーバは、キーボード、マウスに操作により選択(ホットキーモード)できます。 選択中のサーバ電源をOFFした場合はその状態が保持されますが、すべてのサーバ電源をOFFした場合 は、最初に電源投入したサーバが選択されます。また、サーバ未接続のポートやサーバ電源OFFのポート も選択可能ですが何も表示されません。

*注. KVM スイッチ(8 ポート)の例で説明しますが KVM スイッチ(4 ポート/16 ポート)も同様な操作で サーバを切り替えることができます。

ホットキーモードに入ると、画面上に OSD の画面が表示され、OSD 表示を見ながら、ポートの選択ができます。

*注:ホットキーモード中は、サーバへのキーボード・マウスの入力はできません。

ホットキーモード1

ホットキーモードの MODE-1 は次の OSD 画面表示となります。

接続しているキーボードの"ScrollLock"LED が 400ms 間隔で点滅します。

又、KVM スイッチのフロント LED(選択されているポート)が 400ms 間隔で青色点滅します。

カスケード接続している場合は、マスター側の選択されているポートの LED(橙色)が 400ms 間隔で 点滅します。

-	SER	VER SEL	ECT	ION	
MASTE	ER			:	SLAVE
1	SU1		-17		
2 9	SU2				
3 C	CASCADI	NG PORT			
4 9	SU4				
5 S	SV5				
6 9	SV6				
7 5	SU7				
8 5	SV8				
<mark>ARW</mark> ∶S	SELECT		0	: AUTO	SCAN
ENT : S	SET		ESC	:EXIT	
TAB: C	CHANGE	NAME	N	: NEXT	PAGE

MAS	TER	SLA	JE			
1	SV1-	F1	SV3 ⁻	1		
2	SV2	F2	SV3-	2		
3 🕤	CASC	F3	SV3-	З		
4	SU4	F4	SV3-	4		
5	SV5	F5	SV3-	5		
6	SV6	F6	SV3-	6		
7	SV7	F7	SV3-	7		
8	SV8	F8	SV3-	8		
ARW	: SELE	ст		0	: AUTO	SCAN
ENT	SET			ESC	EXIT	
TAB	: CHAN	GEI	NAME	N	: NEXT	PAGE

SERVER SELECTION

カスケード接続していないポート選択時

カスケード接続しているポート選択時

KVM スイッチ(8 ポート)の OSD 画面表示例(実際の画面と異なる場合があります。)

i 画面の説明

- ・ 画面中央の左側(背景色=黒の部分)に本装置の状態が表示されます。
- ・ 画面中央の右側(背景色=青の部分)に本装置のポートにカスケード接続されている スレーブ側装置の状態が表示されます。
- ・ ▶は現在選択されているポートを示し、紫色に表示されている文字列は
 < ↑>、< ↓>、< ←>、< →>で選択可能なサーバを示します。
- ・ 画面下部にはキー操作の簡単な説明が表示されます。
- ・ [1~8、F1~F8] の表示で緑色になっているポートはサーバ電源が ON 状態であることを示します。
- カスケード接続していないポートを選択した場合には、マスター側にサーバ名が17文字 表示され、スレーブ側には何も表示されません。
- カスケード接続しているポートを選択した時にはマスター側画面に4文字表示しスレーブ側画面に17文字を表示します。
- 下図のとおりシフトキーのオンにてマスター側のサーバ名を17文字表示することができます。

SERVER SELECTION						
MAS	MASTER SLAVE					
1 🕤	⊳sv1-	F1	\$V3	1		
2	SV2	F2	SV3-	2		
3	CASC	F3	SU3-	з		
4	SU4	F4	SU3-	-4		
5	SV5	F5	SV3-	5		
6	SV6	F6	SU3-	6		
7	SV7	F7	SV3-	7		
8	S\/8	F8	SU3-	8		
ARW	ARW: SELECT 0 : AUTO SCAN					
ENT	ENT:SET ESC:EXIT					
TAB	: CHAN	GE N	NAME	N	: NEXT	PAGE

シフトキーオンで **●**シフトキーオフで 17 文字表示 表示復帰

	SE	RUER S	ELECT	ION	
MAS	TER				SLAVE
1 🕩	s∨1		17		
2	SU2				
3	CASCAD	ING PO	DRT		
4	SU4				
5	SV5				
6	SV6				
7	SV7				
8	SV8				
<mark>AR₩</mark>	: SELECT		Ø	: AUTO	SCAN
ENT	SET		ESC	EXIT	
TAB	: CHANGE	NAME	N	: NEXT	PAGE

- ii OSD 画面でのサーバ切り替え方法
 - 1) カーソルキーによる選択
 - ・<↑><↓><↔><→>を使用して紫色に表示されている文字列を上下左右に移動させ、 ポートを選択します。
 - ・<ENTER>を押下すると選択を確定し、ホットキーモード1を終了します。切り替え後は 画面左上に約3秒間サーバ名を表示します。

(マウスセンターボタン押下又は左右ボタン同時押下でも選択を確定できます。)

- ・<ESC>を押下すると選択をキャンセルし、ホットキーモードを終了します。
- (<Ctrl>+<Alt>+<Shift>同時押下でも選択をキャンセルできます。)
- 2) 数字キー/ファンクションキーによる直接選択
 - ・マスター側は<1>~<8>が各ポート番号に対応し、スレーブ側は<F1>~<F8>が 各ポート番号に対応します。
 - ・<1>~<8>のいずれかを押下し、マスター側のポートを選択します。
 - ・<F1>~<F8>のいずれかを押下し、スレーブ側のポートを選択します。
 - *注.カスケード接続されていないポートを選択した時点で確定しホットキーモードを終了 します。カスケード接続されているポートを選択した場合は確定せず、スレーブ側の ポート選択入力を待ちます。
 - 例1:マスターのポート1にスレーブが接続されていない場合、<1>押下時点で 確定する。
 - 例 2:マスターのポート1にスレーブが接続されている場合、<1>押下時点では確定せず、 <F1>~<F8>のいずれかを押下した時点で確定となる。)

<1>+<6>

- *注. <F1>~<F8>は<F>+<1>~<8>でも操作できます。
- *注.16 ポートの場合は、<1>~<9>が各ポート番号に対応し、スレーブ側は <F1>~<F12>が各ポート番号に対応します。
 - ポート 10 以上は、キーのコンビネーションにより選択します。
- 例 1:ポート 16 を選択する場合
- 例 2:スレーブ側のポート 16 を選択する場合 <F>+<1>+<6>
- 3) マウスによる選択
 - ・ホイール操作でサーバ選択をします。センターボタン(ホイールボタン)押下、
 または左右ボタン同時押下で選択を確定し、ホットキーモード1を終了します。
 切り替え後は画面左上に約3秒間サーバ名を表示します。
 (ホイールボタン付きマウスの場合)
 - ・サーバ選択画面で右ボタン押下にてスレーブ側を選択します。(カスケード接続時) カスケード接続していない時は、カスタマーモードに移ります。
 - ・サーバ選択画面で左ボタン押下にてマスター側を選択します。(カスケード接続時) また、カスタマーモードで左ボタン押下にてサーバ選択画面に戻ります。

iii オートスキャンモード

<0>を押下するとオートスキャンモードに入ります。 詳細は、"11-2-5.項"を参照ください。

- iv サーバ名の登録・変更
 - 1) カーソルキーでサーバ名を登録・変更したいポートを選択します。
 - 2) <Tab>を押下します。
 - 3) 文字列が黄色になり、サーバ名入力モードになります。
 - 4) キーボードでサーバ名を入力して、<Enter>を押下すると登録・変更されます。
 で1文字削除、<BS>で後退します。<ESC>を押下すると、
 入力がキャンセルされ、登録・変更前の画面に戻ります。
 サーバ名の登録文字数は最大 17 文字です。
 登録できる文字は、ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ1234567890,./[]:+×-及び
 スペースの 46 文字です。
 サーバ名入力モードに於いて、<Ctrl>+<C>でサーバ名をコピーし<Ctrl>+<V>で
 サーバ名をペーストすることができます。

 5) 以下のキーボード操作にてサーバ名称を工場出荷状態に戻すことができます。
 - ・OSD 表示状態で、左<Ctrl>+右<Shift>+<Tab>を同時押下
 - ・OSD 表示状態で、右<Ctrl>+左<Shift>+<Tab>を同時押下
 - 注:カスケード接続時には、上記情報はマスター側に登録されます。

SERVER SELECTION	SERVER SELECTION
MASTER SLAVE	MASTER SLAVE
1 PSU117	1 SV1 F1 SV3-1
2 SU2	2 SV2 F2 SV3-2
3 CASCADING PORT	3 🗭 CASC F3 SV3-3
4 SU4	4 SU4 F4 SU3-4
5 SU5	5 SU5 F5 SU3-5
6 SV6	6 SV6 F6 SV3-6
7 SU7	7 SU7 F7 SU3-7
8 SV8	8 SV8 F8 SV3-8
ARW: SELECT 0 : AUTO SCAN	ARW: SELECT 0 : AUTO SCAN
ENT: SET ESC: EXIT	ENT: SET ESC: EXIT
TAB: CHANGE NAME N : NEXT PAGE	TAB: CHANGE NAME N : NEXT PAGE
. TAB キー	│ TAB ±—−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−
文字登録	- 文字登録
	↓
\downarrow	¥
SERVER SELECTION	SERVER SELECTION
SERVER SELECTION MASTER SLAVE	SERVER SELECTION MASTER SLAVE I SUIT F1 (P)SU3-1
SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 43 SU1	SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 SV1 F1 SU3 1 2 SV2 F2 SV3 2
SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 I SU1	SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 SU1 F1 SU3 1 2 SU2 F2 SU3 2 3 CASC F3 SU3 3
SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 SU1 17 2 SU2 3 CASCADING PORT 4 SU4	SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 SV1 F1 SU3 1 2 SV2 F2 SV3 2 3 CASC F3 SV3 3 4 SV4 F4 SV3 4
SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 SU1 2 SU2 3 CASCADING PORT 4 SU4 5 SU5	SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 SU1 F1 SU3 2 SU2 F2 SU3 3 ➡ CASC F3 SU3 4 SU4 F4 SU3 5 SU5 F5 SU3
SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 SU1 2 SV2 3 CASCADING PORT 4 SV4 5 SV5 6 SV6	SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 SU1 F1 SU3 1 2 SU2 F2 SU3 2 3 ➡ CASC F3 SU3 3 4 SU4 F4 SU3 4 5 SU5 F5 SU3 5 6 SU6 F6 SU3 6
SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 SU1 2 SU2 3 CASCADING PORT 4 SU4 5 SU5 6 SU6 7 SU7	SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 SU1 F1 ♠ SU3 ⁻¹ 2 SU2 F2 SU3 ⁻² 3 ♠ CASC F3 SU3 ⁻³ 4 SU4 F4 SU3 ⁻⁴ 5 SU5 F5 SU3 ⁻⁵ 6 SU6 F6 SU3 ⁻⁶ 7 SU7 F7 SU3 ⁻⁷
SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 SU1 SU2 CASCADING PORT SU4 SU4 SU5	SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 SU1 F1 SU3 ⁻¹ 2 SU2 F2 SU3 ⁻² 3 Image: CASC F3 SU3 ⁻³ 4 SU4 F4 SU3 ⁻⁴ 5 SU5 F5 SU3 ⁻⁵ 6 SU6 F6 SU3 ⁻⁶ 7 SU7 F7 SU3 ⁻⁷ 8 SU8 F8 SU3 ⁻⁸
SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 1 SU1 2 SV2 3 CASCADING PORT 4 SV4 5 SV5 6 SV6 7 SV7 8 SV8 ARW: SELECT 2 : AUTO SCAN	SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 SU1 F1 SU3 ⁻¹ 2 SU2 F2 SU3 ⁻² 3 Image: Case F3 SU3 ⁻³ 4 SU4 F4 SU3 ⁻⁴ 5 SU5 F5 SU3 ⁻⁵ 6 SU6 F6 SU3 ⁻⁶ 7 SU7 F7 SU3 ⁻⁷ 8 SU8 F8 SU3 ⁻⁸ ARW: SELECT Image: Auto Scan
SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 TSU1 2 SV2 3 CASCADING PORT 4 SV4 5 SV5 6 SV6 7 SU7 8 SU8 ARW: SELECT 0 : AUTO SCAN ENT: SET ESC: EXIT	SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 SU1 ⁻ F1 SU3 ⁻¹ 2 SU2 F2 SU3 ⁻¹ 2 SU2 F2 SU3 ⁻¹ 3 CASC F3 SU3 ⁻³ 4 SU4 F4 SU3 ⁻⁴ 5 SU5 F5 SU3 ⁻⁵ 6 SU6 F6 SU3 ⁻⁶ 7 SU7 F7 SU3 ⁻⁷ 8 SU8 F8 SU3 ⁻⁸ ARW: SELECT Ø : AUTO ENT: SET ESC: EXIT
SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 SU2 3 CASCADING PORT 4 SV4 5 SV5 6 SV6 7 SU7 8 SU8 ARW: SELECT Ø : AUTO SCAN ENT: SET ESC: EXIT TAB: CHANGE NAME N : NEXT PAGE	SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 SU1 F1 SU3 1 2 SU2 F2 SU3 2 3 CASC F3 SU3 3 4 SU4 F4 SU3 4 5 SU5 F5 SU3 5 6 SU6 F6 SU3 6 7 SU7 F7 SU3 7 8 SU8 F8 SU3 8 ARW: SELECT 0 : AUTO SCAN ENT: SET ESC: EXIT TAB: CHANGE NAME N : NEXT PAGE
SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 SU2 3 CASCADING PORT 4 SV4 5 SV5 6 SV6 7 SU7 8 SU8 ARW: SELECT 0 : AUTO SCAN ENT: SET ESC: EXIT TAB: CHANGE NAME N : NEXT PAGE	SERVER SELECTION MASTER SLAVE 1 SU1 F1 SU3 1 2 SU2 F2 SU3 2 3 CASC F3 SU3 3 4 SU4 F4 SU3 4 5 SU5 F5 SU3 5 6 SU6 F6 SU3 6 7 SU7 F7 SU3 7 8 SU8 F8 SU3 8 ARW: SELECT 0 : AUTO SCAN ENT: SET ESC: EXIT TAB: CHANGE NAME N : NEXT PAGE

Point 「付録.サーバ名称記録シート」をご使用になられると便利です。

ホットキーモード2

ホットキーモードの MODE-2 は画面左上にサーバ名が OSD 表示されます。 接続しているキーボードの"ScrollLock"LED が 400ms 間隔で点滅します。 又、KVM スイッチのフロント LED(選択されているポート)が 400ms 間隔で青色点滅します。 カスケード接続している場合は、マスター側の選択されているポートの LED(橙色)が 400ms 間隔で 点滅します。



i 画面の説明

画面左上にサーバ名が OSD 表示されます。 切り替える前は、文字の背景が赤色で表示されます。 文字の背景が赤色で表示されている時は、サーバへのキー入力、マウス操作はできません。 切り替えた後は、文字の背景が青色になり、サーバ名を約3秒間表示します。

- ii OSD 画面でのサーバ切り替え方法
 - 1) カーソルキーによる選択
 - ・<←><→>を使用してサーバを選択します。(電源の入っていないサーバは選択しません)
 - ・<ENTER>を押下すると選択を確定し、ホットキーモード2を終了します。切り替え後は画面 左上に約3秒間サーバ名を表示します。
 - (マウスセンターボタン押下又は左右ボタン同時押下でも選択を確定できます。)
 - ・<ESC>を押下すると選択をキャンセルし、ホットキーモードを終了します。 (<Ctrl>+<Alt>+<Shift>同時押下でも選択をキャンセルできます。)

- 2) 数字キー/ファンクションキーによる直接選択
- ・マスター側は<1>~<8>が各ポート番号に対応し、スレーブ側は<F1>~<F8>が各ポート 番号に対応します。
- ・<1>~<8>のいずれかを押下し、マスター側のポートを選択します。
- ・<F1>~<F8>のいずれかを押下し、スレーブ側のポートを選択します。
- *注.カスケード接続されていないポートを選択した時点で確定しホットキーモードを終了します。 カスケード接続されているポートを選択した場合は確定せず、スレーブ側のポート選択入力を 待ちます。
- 例1:マスターのポート1にスレーブが接続されていない場合、<1>押下時点で確定する。
- 例2:マスターのポート1にスレーブが接続されている場合、<1>押下時点では確定せず
 - <F1>~<F8>のいずれかを押下した時点で確定となる。)
- *注. <F1>~<F8>は<F>+<1>~<8>でも操作できます。
- *注.16 ポートの場合は、<1>~<9>が各ポート番号に対応し、スレーブ側は<F1>~<F12>が各ポート番号に対応します。

(<F13>以上のキーがあるキーボードは最大のファンクションキーに対応します。)

ポート 10 以上は、キーのコンビネーションにより選択します。

例1:ポート16を選択する場合

<1>+<6>

例 2:スレーブ側のポート 16 を選択する場合

<F>+<1>+<6>

3) マウスによる選択

マウスの右ボタン押下又は<→>で順方向、マウスの左ボタン押下又は<←>で逆方向にサーバ 切り替えを行うこともできます。未接続ポート、電源の入っていないポートはスキップします。 センターボタン押下又は左右ボタン同時押下で選択を確定しホットキーモード2を終了します。

iii オートスキャンモード

<0>を押下するとオートスキャンモードに入ります。詳細は、"11-2-5.項"を参照ください。

11-2-5. オートスキャンモード

ホットキーモード中に<0>を押下する(又はフロントパネルの[AutoScan]スイッチを押下する とオートスキャンモードに入ります。

画面左上にサーバ名が OSD 表示され接続しているキーボードの[ScrollLock] LED が 400ms 間隔で 点滅します。

又、KVM スイッチのフロント LED(選択されているポート)が"タイミング 1"で青色点滅します。 カスケード接続している場合は、マスター側の選択されているポートの LED(橙色)が "タイミング 1"で点滅します。

点灯 消灯 点灯	消灯	
40ms 40ms 40ms	680ms	1
SV1		
2040		

サーバ名の文字の背景はピンク色になります。サーバ電源が ON になっているポートを一定の周期 (初期値は 10 秒)で自動的に切り替えることができます。切り替えの周期は 3/5/10/20/40/60 秒の範囲で 選択でき、<↑>押下で速くなり、<↓>押下で遅くなります。なお、オートスキャン中はサーバの キー入力、マウス操作をすることができません。

[AutoScan] スイッチ押下、<Enter>押下、マウス左ボタン押下、マウスセンターボタン押下の いずれかの操作で、現在表示している画面を選択し、オートスキャンを終了します。 <ESC>押下、<Ctrl>+<Alt>+<Shift>同時押下、マウス右ボタン押下のいずれかの操作で、 オートスキャンを開始した時の画面に戻り、オートスキャンを終了します。

11-3. サーバ名の常時 OSD 表示

<Shift>を押下しながら<ScrollLock>又は<NumLock>を連続2回押下することにより、 選択しているポートのサーバ名を画面左上に常時 OSD 表示することができます。



本装置の初期状態は非表示状態です。

サーバ名を常時 OSD 表示中に同操作を行うと非表示になります。

常時表示/非表示の設定は、切り替えを行った後もそのまま残ります。

*注.ホットキーモード 1,2 で<Shift>を押下しながら<ScrollLock>又は<NumLock>を連続 2 回 押してもサーバ名の常時 OSD 表示の設定を変更することはできません。

Point 常時 OSD 表示はホットキーモードに移動せずに設定できます。

11-4. 画面左上の小窓 OSD 表示について

画面左上に表示する小窓OSD表示の遷移を下記に示します。



*注. モニタがスリープモードになっている場合、OSD(画像)が表示されるまで数秒 かかります。(モニタにより表示時間は異なります) 特に"サーバクイック選択"のようにOSDの表示が随時変わる場合には、モニタに OSD(画像)が表示されるまでの時間、サーバ選択状態がOSD上では確認できません。

11-5. KVM スイッチ本体の電源供給方法

KVM スイッチ本体の電源供給方法は下記の 2 通りあります。

i 常時電源 ON (ALWAYS ON) 常に電源コンセントより KVM スイッチに供給されます。 ii サーバ連動 (LINK WITH SERVER)

最低1台のサーバの電源が入ったタイミングにて電源コンセントより KVM スイッチに供給されます。 (一部監視回路除く)

初期は常時電源 ON に設定されています。OSD の"POWER SUPPLY"の項目にて電源供給方法を 変更することができます。又、フロントパネルの[AUTOSCAN]と[RESET]を同時押下することでも 電源供給方法を変更することができます。

Point KVMスイッチ本体への電源供給方法は2種類あり任意に設定できます。

11-6. ポート1 固定モードの設定

KVM スイッチの電源投入時に常時ポート1を選択する "ポート1固定モード"の設定ができます。 ポート1以外のサーバの電源が ON になってもポート1の選択を維持します。

設定方法

- (1) KVM スイッチに AC アダプタ(4 ポートの場合)を接続し KVM スイッチに電源を供給します。
 本モード設定中は、AC アダプタ以外(キーボード、マウス、モニタ、サーバ等)接続しないで下さい。(8 ポート/16 ポートは、AC ケーブルを接続します。)
- (2) フロントパネルの[AutoScan]スイッチを 10 秒以上押下します。
 最初の 5 秒間押下中は、フロントパネルの LED(ポート 1)が青色点滅します。
 その後の 5 秒間の押下中はフロントパネルの LED(ポート 1)が橙色点滅します。
- (3) 10 秒押下後に"ポート1 固定モード"に設定され、フロントパネルの LED(ポート1)が 青色点滅します。
 10 秒経過後は、設定前の状態に戻ります。(選択ポートの LED が青色点灯)
 設定されたモードは、KVM スイッチの電源を切っても保持されます。

"ポート1固定モード"から"通常モード"に戻す場合は、上記の(1)~(3)を実行します。
"通常モード"に設定された場合は、フロントパネルのLED(ポート4)が青色点滅します。
(8 ポートの場合は、ポート8のLEDが青色点滅します。16 ポートの場合は、ポート16のLEDが青色点滅します。)

Point ACアダプタ(又はACケーブル)以外は接続しないで設定してください。

項目						
名称		KVM スイッチ	(4 ポート)	KVM スイッヲ	F(8 ポート)	
形格		FS-1104AU	FS-1104MU	FS-1108AU	FS-1108MU	
ORACLE(SUN	l)サーバ対応	-	0	_	0	
接続台数		最大 4	最大4 最大8			
		カスケード接続	カスケード接続にて拡張可能カスケード接続にて拡張可能			
選択方式		SELECT スイッ	チ、OSD 表示(ホッ	トキーモード)		
サーバとの	PS/2 キーボード	PS/2 キーボー	ドインターフェース	(OADG 準拠)		
インターフ	PS/2 マウス	PS/2 マウスイ	ンターフェース(OAI)G 準拠)		
ェース仕様	USB	USB(Full スピ-	ード HID コンポジ	ット)		
コンソール	キーボード I/F	PS/2、Mini DI	N 6P メス ×1 (紫色	5)		
ポート	マウス I/F	PS/2、Mini DI	N 6P メス ×1 (緑色	5)		
コネクタ	モニタ	Mini D-SUB 15	iP メス ×1 (青	色)		
	USB コンソール	USB キーボー	・ド、マウス(Low、F	ullスピード)、	ハブ	
		但し USB コネクタは 2 個				
		接続できるデル	「イスの最大数は下記	このとおり。		
		• +— <i>ボ</i> —	·ド、マウス合わせて 	4台		
ホストポート		$\begin{array}{c} \text{Mini D-SUB 15P } \times \times \times 4 \\ \text{Mini D-SUB 15P } \times \times \times 8 \\ \text{Mini D-SUB 15P } \times \times \times 8 \\ \text{Mini D-SUB 15P } \times \times \times 8 \\ \text{Mini D-SUB 15P } \times \times 8 \\ Mini$				
$OSD \pm -F$	N .16K 4F				ヤンモート	
オート人キャ		3/5/10(初期値)/20/40/60 秒の周期にてリー八画面の日動表示切容 1020 x 1200(是十)				
	ξ Ι. Γ.	1920 x 1200(i	듃 大)			
リンレッシュ	- レート 79.プレイ機能		≢切			
<u> し 一 ア ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ</u>		DC5V/1.6A AC100V/0.25A				
	灵电加	(AC100V/0.23)	/1.0A AC1007/0.25A		N	
		(AC100V/0.23/	(AC100V/0.23A) AC240V/0.13A		N	
最大漏洩電流	〔(電源の仕様)	0.1mA(AC100)	 V 時)	0.4mA(AC132	 V時)	
コンソールポ	パートへのキーボ	PS/2 ≠−ボ-	-ド 150mA(MAX)	,		
	、 - ···································	PS/2 = 70 Γ ΓΟΠΠΑ(ΜΑΧ) PS/2 $= 70$ $= 150$				
		$ ISB \neq -\pi - \kappa = 300 \text{ mA}(\text{MAX})$				
		USB マウス 300mA(MAX)				
動作周囲温度	[/湿度	5~40°C / 20~80%RH				
保存温度		-20~60°C / 8~85%RH				
最大湿球温度	F	動作時 25℃以下				
		非動作時、輸送	<u> 後</u> び保管時 46℃以	下		
構造		金属ケース、塗	装(オフブラック)			
外形寸法 ()	W×D×H)	195×114×40)mm	437×214×47	lmm	
(突起物含む))					
皙量		0.8ka		2.5ka		

12. 仕様

添付品	AC アダプタ 1個	AC ケーブル(2m) 1本
	AC コード(1m) 1本	抜け防止バンド 1本
	抜け防止バンド 1本	ワイヤーフクサー 1個
	オペレーティングマニュアル	ラック取付金具(大) 2個
	(本書) 1部	ラック取付金具(小) 2個
		ラック取付金具取付ネジ 10 個
		オペレーティングマニュアル
		(本書) 1部

I	頁 目			
名称		KVM スイッチ(16 ポート)		
形格		FS-1116AU	FS-1116MU	
ORACLE(SUN)サーバ対応		-	0	
接続台数		最大16		
		カスケード接続にて拡張可能		
選択方式	1	SELECT スイッチ、OSD 表示(オ	<u>ヾットキーモード)</u>	
サーバとの	PS/2 キーボード	PS/2 キーボードインターフェー	-ス(OADG 準拠)	
インターフ	PS/2 マウス	PS/2 マウスインターフェース((DADG 準拠)	
ェース仕様	USB	USB(Full スピード HID コンポ	ジット)	
コンソール	キーボード I/F	PS/2、Mini DIN 6P メス ×1 (#	紫色)	
ポート	マウス I/F	PS/2、Mini DIN 6P メス ×1 (約	录色)	
コネクタ	モニタ	Mini D-SUB 15P メス×1	青色)	
	USB コンソール	USB キーボード、マウス(Low	、Full スピード)、ハブ	
		但し USB コネクタは 2 個		
		接続できるデバイスの最大数は	下記のとおり。	
		・ キーボード、マウス合わせて 4 台		
		・ ハブ 1段		
ホストポート	•	Mini D-SUB 15P メス×16 (黒色)		
OSD モード		マニュアル (ホットキー) モード / オートスキャンモード		
オートスキャ	ン機能	3/5/10(初期値)/20/40/60 秒の周期にてサーバ画面の自動表示切替		
モニタ解像度	-	1920 x 1200(最大)		
リフレッシュ	レート	60Hz		
モニタプラグ	をプレイ機能	VESA DDC2B 準拠		
電源/消費	費電流	AC100V/0.30A		
		AC240V/0.15A		
最大漏洩電流	(電源の仕様)	0.15mA(AC100V 時)		
コンソールポ	ピートへのキーボ	PS/2 キーボード 150mA(MA	X)	
ード/マウス俳	共給可能電流	PS/2 マウス 150mA(MA	X)	
		USB キーボード 300mA(M/	4X)	
		USB マウス 300mA(M/	4X)	
		但しトータルで 500mA を超えないこと		
動作周囲温度	/湿度	5~40℃ /20~80%RH		
保存温度		-20~60°C / 8~85%RH		
最大湿球温度		動作時 25℃以下		
		非動作時、輸送及び保管時 46℃	以下	
構造		金属ケース、塗装(オフブラック)		

外形寸法 (W×D×H)	437×214×41mm
(突起物含む)	
質量	2.8kg
添付品	AC ケーブル(2m) 1本
	抜け防止バンド 1本
	ワイヤーフクサー 1個
	ラック取付金具(大) 2 個
	ラック取付金具(小) 2 個
	ラック取付金具取付ネジ 10 個
	オペレーティングマニュアル(本書) 1部

製品形格

名称	形格	備考
KVM スイッチ 4ポート	FS-1104AU	
KVM スイッチ 8 ポート	FS-1108AU	
KVM スイッチ 16 ポート	FS-1116MU	
KVM スイッチ 4ポート	FS-1104MU	ORACLE(SUN)対応品
KVM スイッチ 8 ポート	FS-1108MU	ORACLE(SUN)対応品
KVM スイッチ 16 ポート	FS-1116MU	ORACLE(SUN)対応品

(参考:オプション)

名称	形格	備考
サーバ/PC 接続専用ケーブル	FP-C018-PS2	PS/2:1.8m
	FP-C030-PS2	PS/2:3.0m
	FP-C050-PS2	PS/2:5.0m
	FP-C018-USB	USB:1.8m
	FP-C030-USB	USB:3.0m
	FP-C050-USB	USB:5.0m
ラックマウントパネル	FP-P005	
(4 ポート用)		

13. トラブルシューティング

症状	原因	対策
キーボード、マウス	キーボード、マウスが逆接続。	サーバ及び本装置に正しく接続す
の動作がおかしい	(PS/2 のみ)	る。
/ 動作しない。	ホットキーモードが解除されていない。	<enter>か<esc>を押す。</esc></enter>
	接続 / ケーブル不良。	コネクタの接続を確認する。
		別のキーボード又はマウスに交換
		する。
	サポートしていないキーボード、マウスを	サポートされている
	接続。	キーボード、マウスに交換する。
	PS/2 コンソールと USB コンソールの両方	PS/2かUSBどちらかのキーボード、
	にキーボード、マウスを接続している。	マウスを外す。
		PS/2 と USB の両方に接続している
		と USB 側が優先され、PS/2 側は動
		作しません。
	キーボードタイプ (カントリーコード) を	カスケード接続にてスレーブ側に
	設定したのに設定通りに動作しない。	旧タイプの KVM スイッチを接続し
		ている場合に旧タイプの KVM スイ
		ッチ本体にある DIP スイッチの設
		定が有効になる。DIP スイッチの設
		定を変更する。
マウスのボタンが	サポートしていないマウスを使用した。	サポートされているマウスに交換
動作しない。		する。
	専用ドライバをインストールしてない。	専用ドライバをインストールする。
画質が劣化する。	接続 / ケーブル不良。	コネクタの接続を確認する。
(ゴーストや文字の		別ケーブルと交換し、問題が解決し
ニジミ等)		たら、良品ケーブルに交換し、不良
		ケーブルは廃棄する。
切り替えると画面	解像度が違う。	解像度を合わせるか、モニタ側で調
がずれたり、表示で		整する。
きなかったりする。	モニタが未対応 / 同期が取れない。	サポートされているモニタを接続
		する。
		モニタ側で調整する。
オートスキャンの	切り替え周期が調整されていない。	<↑>及び<↓>で調整する。
切り替え周期がお	(初期値 10 秒)	
かしい。		
今まで動いていた	接続が外れた。	接続を確認し、再起動する。
のに突然動かなく	本装置がハングアップした。	リセットスイッチを押す。
なった。	サーバに不具合が発生した。	サーバの不具合を直す。

症状	原因	対策
カスケードを認識	本装置に不具合が発生した。	マスター側 KVM のリセットスイッ
しない。		チを5秒以上長押しする。
画面が映らなくな	サーバの省電力モード設定により画像信	ホットキーモード1に入ることによ
った。	号をサーバが出力しなくなった。	りマウスカーソルを自動で動作さ
		せ省電力モードから復帰する。(従
		来機種では本機能はありません)
	選択されたサーバの電源が OFF になった。	ホットキーモード1に入り他のサー
		バを選択する。
	モニタが本装置の切替速度に対応してい	OSD にて SELECT-B 設定を
	ない為、モニタがハングアップした。	SELECT-A に設定しモニタの電源を
		再投入する。
画面の表示サイズ	モニタの EDID が読み込まれていない。	ホットキーモード 1 に入り EDID デ
がおかしい。		ータを設定する。
	モニタが対応していない。	対応しているモニタを接続して
		EDID データの設定をする。
[ServerSelection]	切替の遅い旧タイプの KVM スイッチをス	[ServerSelection]スイッチを速く
スイッチにサーバ	レーブに接続している。	押下した場合のみに起こります。ゆ
の切替が追従しな		っくりスイッチを押下するか長押
い。		しによるサーバクイック選択
		(SELECT-A)にて操作する。
		スレーブを高速切替可能な本 KVM
		スイッチに交換することでも回避
		可能です。
サーバ連動(LINK	カスケード接続している場合は、マスター	OSD 又は、フロントパネルの操作に
WITH SERVER)の	側とスレーブ側の両方を LINK WITH	よりマスター側を LINK WITH
動作にならない	SERVER 設定する必要がある。	SERVER に設定する。スレーブ側は
		フロントパネルの操作により LINK
		WITH SERVER の設定にする。

付録. サーバ名称記録シート

本装置に設定したサーバ名称の控えを記録しておきます。

Master Unit			
NO.	NAME		
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
12			
13			
14			
15			
16			

SI	ave Unit Port.1
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
12	
13	
14	
15	
16	

Slave Unit Port.2			
NO.	NAME		
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
12			
13			
14			
15			
16			

Slave Unit Port.3			
NO.	NAME		
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
12			
13			
14			
15			
16			

SI	Slave Unit Port.4				
NO.	NAME				
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
12					
13					
14					
15					
16					

Slave Unit Port.5				
NO.	NAME			
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
12				
13				
14				
15				
16				

Slave Unit Port.6		Slave Unit Port.7		
NO.	NAME	NO.	NAME	Ν
1		1		
2		2		
3		3		
4		4		
5		5		
6		6		
7		7		
8		8		
9		9		
10		10		1
12		12		1
13		13		1
14		14		1
15		15		1
16		16		1

Slave Unit Port.8	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
12	
13	
14	
15	
16	

Slave Unit Port.9	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
12	
13	
14	
15	
16	

Slave Unit Port.10		
NO.	NAME	
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
12		
13		
14		
15		
16		

Slave Unit Port.11		
NO.	NAME	
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
12		
13		
14		
15		
16		

Slave Unit Port.12		Slave Unit Port.13	
NO.	NAME	NO.	NAME
1		1	
2		2	
3		3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	
16		16	

S	Slave Unit Port.14		
NO.	NAME		
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
12			
13			
14			
15			
16			

Slave Unit Port.15	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
12	
13	
14	
15	
16	

Slave Unit Port.16		
NO.	NAME	
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
12		
13		
14		
15		
16		

保証規定

1.保証期間内に商品が故障した場合は、本規定に従い無償修理致します。

製品に本書を添えてお買い上げ販売店等にご依頼ください。

2.保証期間内でも次の場合は有償となります。

(1)修理依頼時に保証書またはお買い上げ伝票の提示がない。

(2)お買い上げ日、お客様名、販売店印の記入がない、及び保証書またはお買い上げ伝票を改変した場合。

(3)商品に添付のユーザーズ・マニュアルの注意事項やご使用上の注意を満足していない場合。

(4)出張修理を要する場合。

(5)本書に故障内容を明記されていない場合。

(6)書面が添付されていても、内容が不明で再現のために調査費用が発生した場合。

(7)火災、地震や台風などの天災、騒乱などの人災、公害や異常電圧などの使用環境による故障および損傷。

(8)保管・運搬による故障および損傷。

(9)接続された他の機器に起因して故障した場合。

(10)弊社保守部門以外で修理、調整、改造をした場合。

(11) 取扱い上での不注意、ご使用による故障および損傷。

(12)弊社が認めた以外で使用した場合のトラブル。

3.将来販売されるソフト、ハードとの互換性は保証されませんのでご了承ください。

・ソフトやハードの組み合わせ等の相性で発生するトラブルは故障としませんのでご了承ください。

・修理・交換部品が製造中止や入手困難な場合は、相当品または上位互換品と交換する場合があります。

·本商品を第3者に転売した場合は保証対象外となります。

4.本商品の故障またはその使用で生じた直接的、間接的損害は、弊社は一切の責任を負わないものとします。 5.本保証規定は日本国内で有効です。 This warranty is valid in Japan.

また本商品は、極めて高い信頼性が要求される下記のような用途での使用はできません。これらの使用は 保証対象外となりますので、あらかじめご了承ください。

・軍事目的・原子力設備・交通制御設備・防火、防災設備・燃焼制御設備・航空宇宙機器・生命維持のための
 医療機器・その他人命や財産に影響をおよぼす設備。

*保証期間終了後の有償修理は別途見積となります。

本規定は、以上の保証規定により弊社が無償保証を行うためのもので、これによりお客様の法律上の権利を 制限するものではありません。

< 故障内容 >

故障内容を具体的に記載ください。

記載ない場合は返却させていただく場合があります。

★1. パソコン、キーボード、マウス、モニタの型式を記載ください。

★2. 初期不良でしたか? 使用中の故障でしたか? : (初期/使用中)

★3. 故障内容を具体的に記載ください。

< WEB掲載用のため保証書欄は削除しています >

<製品のお問い合わせ>

富士通コンポーネント株式会社

第二マーケティング部 TEL 03-3450-1645

E-mail : fcl-servis-center@cs.jp.fujitsu.com

ホームページ:http://www.fujitsu.com/jp/fcl/

<修理・不具合に関するお問い合わせ>

富士通コンポーネント お客様サービス&サポートセンター

0120-810225

◎ ※携帯電話、PHSからもご利用になれます。

E-mail : fcl-servis-center@cs.jp.fujitsu.com

営業時間:9:00~12:00、13:00~17:00(土、日、祝祭日を除く)

KVM スイッチ(4 ポート) [FS-1104AU]/[FS-1104MU] KVM スイッチ(8 ポート) [FS-1108AU]/[FS-1108MU] KVM スイッチ(16 ポート)[FS-1116AU]/[FS-1116MU]

オペレーティングマニュアル

発行日 2015 年 12 月 発行責任者 富士通コンポーネント株式会社

Printed in Japan

● 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。

● 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の
 侵害については、当社はその責を負いません。

● 無断転載を禁じます。

FUJITSU



151201 (NC14004-L217-04)